

- ②「南アジア：域内協力と開発」ラケシュ・モハン（ICRIER）（代読）
- ③「中国：ITマネジメントと貧困削減」ファン・ガン（NERI）
- ④「東南アジア：自助努力とガバナンス」マリオ・ランベルテ（PIDS）
- ⑤「アフリカ：貧困削減のための課題：制度・教育・保健・農業・貿易」ドミニク・ニジック（AERC）
- ⑥コメント：モンテ・カセム（立命館大学政策科学部）

本シンポジウムは開発援助の観点から催されたものであり、国際政治、国際経済、国の制度や行政のあり方など一般に人口の分野では論じられないテーマも多かったが、現実の動きに立脚したものであり、興味深いものがあった。今後、人口ならびに社会保障分野との研究交流が進められることが期待されよう。（佐藤龍三郎記）

## 2002年度日本建築学会大会（北陸）

2002年度日本建築学会大会（北陸）は、2002年8月2日～4日の3日間にわたり、金沢工業大学（石川県石川郡）を主会場として開催された。「劣化と再生：地球・地域・建築・生命の新たな関係」をテーマに、学術講演のほか、シンポジウムや研究協議会、パネルディスカッション等多様なプログラムのもと、多くの参加者により活発な議論が行われた。また、記念シンポジウムや講演会が金沢市内各所で開催され、会員のほか多数の一般参加者を迎え盛況であった。記念シンポジウムのひとつ「よい建築と環境をつくるために社会システムはどうあるべきか」のテーマ設定によく表れているように、本大会においては、ハードのみならず、ソフトの劣化・再生により大きな関心が寄せられている。

学術講演では、人口を直接にあつかう研究報告は少ないが、おもに都市計画部門において、土地利用との関連から、都心の人口動向、人口と就業者分布の予測、人口移動に関する興味深い報告があった。世帯や家族については、高齢期における家族と住まい方の変容過程をサポートネットワークという視点から分析したものが建築計画部門を中心に多数報告された。また、建築経済・住宅部門においては、世帯の成長過程や転居行動などに関する報告を集めたセッションが設けられ、住宅の地方性や自治体の住宅政策について議論が交わされた。筆者は同部門において高齢者の世帯変動の地域差に関する報告を行った。

大会を通して、計画分野においては、人口減少時代を見据えた建築・都市計画という姿勢がこれまでよりも明確に打ち出されている印象を受けた。人口減少社会への対応、サステナビリティなど、建築・都市計画の現場では新しい手法の模索が続いているようである。（小山泰代記）

## 第12回日本家族社会学会大会

日本家族社会学会（会長：石原邦雄・東京都立教授）の第69回大会（大会実行委員長：直井道子・東京学芸大学教授）が2002年9月21日（土）～22（日）の2日間にわたって小金井市の東京学芸大学で開かれた。初日の午前から2日目の午前にかけて2つのテーマセッションを含む12のセッションで40以上の研究報告がなされ、2日目の午後には「『現代社会における家族ならびに結婚の意味を問う』パートⅠ 現代社会における結婚の意味とは何か」と題されたシンポジウムが行われた。学問分野の